

1. 北海道（地域別調査機関：株式会社北海道二十一世紀総合研究所）

（－：回答が存在しない、＊：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連 (北海道)	◎	商店街（代表者）	・観光客の動向が良く、コロナ禍前のような勢いが感じられることから、今後の景気は良くなる。外国人観光客も個人客を中心に好調である。ただ、個人客が堅調に推移している一方で、団体客は貸切りバスが圧倒的に不足していることもあって不調である。
	◎	一般小売店〔酒〕（経営者）	・6月及び7月の売上がコロナ禍前の水準に回復してきたことから、これからよほどのアクシデントがない限り、景気は良くなる。
	◎	観光名所（従業員）	・インバウンドが顕著に増加している。団体客はもちろん、個人客が急激な伸びをみせている。国内観光客も好調であり、平日であっても週末並みの利用がみられる日が増えている。こうした傾向が減速するような要因はみられないことから、今後の景気は一層良くなっていく。
	◎	住宅販売会社（経営者）	・観光客が徐々に増えていることで、ホテルの宿泊単価が上がってきている。また、飲食店の消費単価も増えている。そのため、これから徐々に景気が良くなり、住宅着工数も底を打って増加に転じることを期待している。
	○	商店街（代表者）	・人出がコロナ禍前よりも増えていること、それに伴って各商店の来客数や売上も回復しつつあることから、今後の景気は良くなる。ただ、物価や金利の動きによって状況が変化することも懸念される。
	○	一般小売店〔土産〕（経営者）	・少子化の影響で漁師の数が減っていることで、仕入値が上昇している。また、光熱費や人件費も上昇していることから、当社にとっては利益がほとんど出ていない状況であるものの、観光客が好調に回復していること、特に東南アジアからの観光客の客単価が伸びていることなどから、今後の景気は良くなる。多くの客から海外旅行の話聞く機会が増えているなど、客の気分が明るくなっていることもプラスである。
	○	一般小売店〔土産〕（経営者）	・シニア層の旅行意欲が高まっていることから、夏休みシーズンはもちろんのこと、秋の行楽シーズンにおいてもシニア層の需要が期待できる。これから秋にかけて、景気は上向くことになる。
	○	百貨店（売場主任）	・10月以降、中国人観光客の入込が増えると期待できるため、今後の景気はやや良くなる。
	○	百貨店（販売促進担当）	・物価高の影響で消費者の購買意欲は低下しつつあるが、富裕層の購買意欲が活発であり、物価高に伴って商品単価も上昇しているため、今後も景気の良い状態がしばらく続く。
	○	百貨店（マネージャー）	・客の買上動向から、今後も販売促進企画を継続して行うことで、買上客数の増加が続くとみられるため、景気は良くなる。
	○	スーパー（店長）	・このままコロナ禍前と同様の経済活動が行われることになれば、9月以降もトラベル商材や重衣料などの売上増加が見込める。
	○	コンビニ（エリア担当）	・現状の需要に見合った経営が十分にできているなか、これからインバウンドなどの需要が活発になることを期待している。インバウンドのニーズに合わせた品ぞろえを充実させるとともに、セット商品を展開することで、一層の売上を確保できるようになる。
	○	乗用車販売店（従業員）	・現在は、最も人気のある車種のフルモデルチェンジを控えて、苦しんでいる時期であるが、2～3か月後にはフルモデルチェンジの効果が期待できるため、今後の景気はやや良くなる。
	○	乗用車販売店（従業員）	・主力車種のモデルチェンジがこの秋に予定されていることから、今後の景気はやや良くなる。
○	高級レストラン（スタッフ）	・国内外からの観光客が増えており、観光地では8月末まで満室続きのホテルもみられる。それに伴って、周辺の飲食店も繁盛すると期待している。観光シーズンが終わった後の動向や経費増など、心配な面もあるが、今後の景気はやや良くなる。	
○	高級レストラン（スタッフ）	・引き続き人流が増加していくことが期待できるため、今後の景気はやや良くなる。	

○	高級レストラン（スタッフ）	・コロナ禍の間、旅行できなかったことの反動で、ここ数か月、観光客が増加しており、年内はこうした傾向が続くとみられることから、景気はやや良くなる。
○	旅行代理店（従業員）	・今後の景気はやや良くなると期待している。ただ、新型コロナウイルス感染症が再流行していることから、今後、旅行需要が落ち込むことも懸念される。
○	タクシー運転手	・今後も夏のイベントなどが予定されていることから、例年並みの状態に回復することを期待している。
○	タクシー運転手	・新型コロナウイルス感染症が5類に移行したことで、以前のような人の動きがみられていることから、今後の景気はやや良くなる。さらに、ウクライナ情勢などが落ち着けば、景気は一層上向くことになる。
○	通信会社（企画担当）	・毎年秋に販売される人気の通信端末の効果による売上回復を期待している。ただ、円安の影響で通信端末の価格が高騰しているため、首都圏と比べて所得水準の低い北海道においてどこまで効果が期待できるのか心配な面もある。
○	美容室（経営者）	・今後については、新型コロナウイルスの感染がよほど拡大しない限り、人の動きは活発になっていく。それに伴って、客の来店頻度が上向くことを期待している。
□	一般小売店（経営者）	・全体の景気の底上げが、当社の商売につながるまでまだ時間が掛かるとみられるため、今後も景気は変わらない。
□	スーパー（店長）	・生鮮部門において、即食系の総菜は好調であるが、野菜、魚、肉などはコロナ禍で内食需要が高まったことの影響でやや落ち込んでいる。これらの商材の回復がみえてこない限り、景気は良くならない。冷凍食品や即席麺、菓子、飲料、レンジ商品などは好調であるが、商圈内にディスカウントストアのイメージが強い競合店が増えているため、客の節約意識が強まることになれば、より価格の安い他店に客が流れてしまうことが懸念される。これらのことから、今後も景気は変わらない。
□	スーパー（従業員）	・物価の高騰が落ち着くような動きがみえてこないため、今後も景気は変わらない。
□	コンビニ（エリア担当）	・商品の値上げ、光熱費の引上げを背景に、今後も消費者の生活防衛意識の強い状態が続くとみられるものの、コロナ禍の終息に伴って人流が回復していることから、全体ではプラスマイナスゼロで推移することになる。各店舗の経営面においても、値上げの影響で売上がプラスになる一方で、営業経費が増加していることから、余り変化はないものとみられる。
□	コンビニ（エリア担当）	・当業界では新型コロナウイルス感染症の影響がプラスに作用していたが、コロナ禍が終息したことから、それまで上乗せされていた分の需要がなくなっている。ここ数か月、状況は変わっていないため、今後も今と変わらないような売上で推移する。
□	衣料品専門店（経営者）	・景気が変わるような気配がない。
□	衣料品専門店（店長）	・他業界では客の動きが良くなっているようであるが、当業界においては客の購買意欲が高いとはいえない状況にある。ライフスタイルの変化によりスーツ需要が落ち込んでいるため、今後も厳しいまま推移する。
□	衣料品専門店（エリア担当）	・社会行事や地域行事がコロナ禍前と同じように行われていることで、人の流れが活発になっている。ただ、今後については、物価が高止まりすることも懸念されるため、現状よりも景気が良くなるとは考えにくい。
□	家電量販店（経営者）	・夏商戦が落ち着き、秋に向かう時期となるため、今後の売上は落ち込むことになる。
□	乗用車販売店（経営者）	・販売量は堅調に推移している。一方、受注状況については、新型車が発売された際に一時的に改善したが、生産が追いつかずオーダーストップとなったことから、ブレーキが掛かった状態となっている。競合店も厳しい状況にある。ただ、観光業は人の動きが活発なことから好調である。
□	乗用車販売店（経営者）	・外国人観光客が増加していることで、観光関連業は景気が良くなるとみられるが、生活にかかわるような消費財については、値上げの影響もあって消費が抑制されることになる。そのため、今後の景気は現在と変わらない又はやや悪くなる。

□	乗用車販売店（従業員）	・新型車の生産量が回復するまで、今と同様の状態が続くことになる。現状、販売できない車種が多く、生産状況が改善されない限り、景気は良くなるならない。
□	自動車備品販売店（店長）	・何らかの動きが起こらない限り、今後も景気は変わらない。
□	住関連専門店（役員）	・商品の値上げの影響もあって、客は必要な物を必要な量だけ買う傾向が続いている。そのため、今後も7月と変わらずに推移する。
□	観光型ホテル（経営者）	・紅葉シーズンの予約が好調に推移していることから、今後も好調な状態が続く。
□	観光型ホテル（スタッフ）	・コロナ禍においてみられていた直前の予約が多い状況は今も大きく変わっていない。そのため、現時点の状況から判断すると、2～3か月後も特に目立って良い状況とはならない。
□	旅行代理店（従業員）	・現在の宿泊代金の高騰は、観光業界の人材不足や円安の影響によるものであり、今後、インフレ傾向から脱却していくことを期待している。ただ、年金受給者の消費は減るとみられるため、全体的な見通しは今後も変わらない。
□	タクシー運転手	・観光客が増えてきていることに加えて、今年の夏は暑い日が続くことから、タクシーの利用は前年よりも増えることになる。タクシー1台当たりの売上は大きく増えると期待しているが、乗務員が不足しており、思うように補充もできないため、会社の売上は若干の増加にとどまることになる。
□	タクシー運転手	・商品やサービスの値上げが続いているが、円安に伴う原油価格や輸入商材の高騰を要因としたものであり、国内消費や景気を押し上げるような値上げではないことから、今後も景気は変わらない。
□	タクシー運転手	・問合せはあるものの、事前キャンセルとなることも多く、予約状況は上向きとはいえない。期待していた観光客の予約も若干の減少となっていることから、今後も景気は変わらない。
□	タクシー運転手	・コロナ禍の3年間で退職者が増えたことで稼働している車が足りない状況にある。人の動きが活発になっていることから、売上は増えるとみているが、どの程度の増加幅となるのかを注視している。今後も今と同じような状況が続いてくれることを期待している。
□	通信会社（エリア担当）	・先行きの見通しが立たない。
□	通信会社（エリア担当）	・通信キャリアの方針に左右される部分が多く、自社努力だけでは解決できる問題ではないことから、今後も景気は変わらない。
□	観光名所（職員）	・物価の上昇に伴って、売手の景気が少しずつ良くなることを期待している。ただ、買手からすると消費をちゅうちょすることも懸念される。これらのことから、物価が高止まりしたとしても、景気は現状とさほど変わらないまま推移する。
□	その他サービスの動向を把握できる者〔フェリー〕（従業員）	・10月頃まで観光客の利用が期待できるため、今後も好調なまま推移する。
□	住宅販売会社（経営者）	・所得の増加が物価の上昇を下回る状況が続いているため、この状況がなるべく早く逆転することを期待している。分譲マンション市場が持続的に成長するためには、緩やかなインフレとそれを上回る確かな所得の増加が必要である。
□	住宅販売会社（従業員）	・物価上昇に加えて金利も上昇していることから、住宅購入に向けた消費者マインドが回復するまで時間が掛かるものとみられる。
▲	商店街（代表者）	・客との会話で、値上げの話ばかりで良いことがないと話をよく聞くため、今後の景気はやや悪くなる。
▲	商店街（代表者）	・今後については、当地の主なイベントがほぼ終了しているため、日配品を購入する区域内の住民を除けば、来街者は減少することになる。また、観光客も周辺の観光地だけを訪れるようになる。これらのことから、中心部の店舗において売上が増えるような材料はなく、景気はやや悪くなる。
▲	商店街（代表者）	・新型コロナウイルス感染症が5類に移行したことで、来客数が増加傾向にあるが、増税や値上げの話題が絶えないことから、今後、買い控えの動きが強まることや来客数が減少することが懸念される。

	▲	スーパー（店長）	・物価の上昇に加えて、エネルギーコストも上昇していることから、今後の景気はやや悪くなる。
	▲	スーパー（店長）	・光熱費が引き上げられ、原材料価格も高騰しているため、今後の景気はやや悪くなる。
	▲	スーパー（店長）	・前年の秋頃から値上げの動きが進んでいることで、来客数は横ばい又はやや減少している。これまでは来客数が多少減ったとしても、客単価の上昇で落ち込み分をカバーできていたが、今後は卵の集客効果の恩恵がなくなっていくこと、値上げの動きが一巡することから、売上が前年を下回ることも懸念される。
	▲	スーパー（企画担当）	・足元の販売状況を見ると、商品単価の上昇に伴って、買上点数が落ち込む傾向が続いている。客の購買動向はこれまで価格上昇をある程度許容してきたが、徐々に価格上昇に付いていくことができない状態に変化しつつある。
	▲	スーパー（企画担当）	・今後も販売量の減少が続くとみられる。また、売上の減少分を物価の上昇によって補う構造は今後も変わらないとみられるが、物価上昇の天井がみえてこない、年末に向けて客の節約志向が高まり、消費行動が冷え込むことが懸念される。
	▲	スーパー（役員）	・電気料金が引き上げられ、食料品などの値上げもまだ続くことから、家で調理することで節約しようとする客が増えている。このため、今後の景気はやや悪くなる。
	▲	コンビニ（エリア担当）	・夏休み以降、観光需要が一巡し落ち着くことが見込まれる。さらに、光熱費の負担増、物価高の影響で客の節約志向が強まることも懸念される。
	▲	その他専門店〔医薬品〕（経営者）	・景気が良くなるような要素が見当たらない。今後については、客に対して健康に関する啓もう活動や店頭活動を続けていくことで少しでも販売につなげていくだけである。
	▲	その他専門店〔造花〕（店長）	・物流の2024年問題について、今後、どのような影響が生じてくるのか分からないため、楽観的に受け止めることができない。
	▲	スナック（経営者）	・現状、とても苦労していることから、今後の景気はやや悪くなる。ただ、夏休みが終わる頃になれば、暑さも収まってくるため、少しでも景気が回復してくることを期待している。
	▲	旅行代理店（従業員）	・国内客については、夏季繁忙期が過ぎれば観光需要もやや落ち着くことになる。一方、インバウンドについては、7月に上海や北京といった中国路線が再開したが、まだ中国からの団体旅行が解禁されていないというマイナス要素があるため、本格的な回復まで時間が掛かることになる。
	▲	旅行代理店（従業員）	・全国旅行支援の終了、宿泊料金や貸切りバス料金の高騰、運転手不足による貸切りバスの不足などのマイナス要因により、今後、販売量がやや減少することになる。
	▲	美容室（経営者）	・今後について、景気が良くなるような見通しが無い。中小企業に対して何らかの経済対策が行われることを期待したい。
	×	—	—
企業 動向 関連 (北海道)	◎	通信業（営業担当）	・観光客の回復、飲食業の活況などの効果で、今後、当地の景況感には着実な回復傾向を示すことになる。繁華街の人出はコロナ禍前の水準まで回復している。
	○	農林水産業（経営者）	・9月又は10月になれば、青果物の動きが良くなるとみられることから、今後の景気はやや良くなる。
	○	金融業（従業員）	・先行きへの懸念材料として、電気料金の動向を挙げる企業が多いが、9月までは電気・ガス価格激変緩和対策が続くことになる。また、人流の回復、インバウンドの増加により、サービスも含めた個人消費が増加することが期待できるため、今後の景気はやや良くなる。
	○	その他サービス業〔建設機械レンタル〕（総務担当）	・都心部の再開発が引き続き好調に推移していること、インバウンドの一層の増加が期待できることから、今後の景気はやや良くなる。
	○	その他サービス業〔建設機械リース〕（営業担当）	・建設需要が着実に伸びていることから、今後の景気はやや良くなる。
	□	食料品製造業（従業員）	・今後も売上がやや落ち込んだ状況が続くとみられる。

	<input type="checkbox"/>	建設業（経営者）	・土木、建築共に、ほぼフル稼働の状態が続くとみられるものの、人手不足の影響が懸念される。また、農業土木工事について、天候による影響が生じることが懸念される。
	<input type="checkbox"/>	建設業（従業員）	・建設業における作業員不足の問題はしばらく改善する見通しが立たない状況にある。むしろ、今後、作業員不足が加速することも見込まれ、それに伴って設計案件も後ろ倒しになることが懸念される。
	<input type="checkbox"/>	建設業（役員）	・上半期については、これからも順調に推移する見通しに変わりはない。今後は、年度後半に向けて、利益を上積みできるような工事案件の受注活動に注力していくことになる。
	<input type="checkbox"/>	輸送業（従業員）	・当社のみならず、同業他社についても物量の減少が続いている。また、燃料価格の先行きが不透明なこともあって、厳しい状況にある。燃料油価格激変緩和補助金が予定どおり9月末に終了することになれば、経費は更に増えるため、景気が良くなるとは考えにくい。
	<input type="checkbox"/>	輸送業（支店長）	・今後については、確定している大型案件等が少ないため、景気は変わらないまま推移する。
	<input type="checkbox"/>	司法書士	・建築資材の高騰などにより、建築単価が上昇しており、住宅建築を考える客がちゅうちょする一因となっている。また、物価上昇により賃上げの効果が打ち消されていることも住宅新築に影響を与えており、景気回復はかなり遅れることになる。景気が回復しているのは一部の業種にとどまっており、現状と変化のないまま推移することになる。
	<input type="checkbox"/>	その他サービス業〔ソフトウェア開発〕（経営者）	・案件はいろいろと出てきているが、人材が確保できないため、思うように受注できない状況にある。今後についても、人手不足に伴うチャンスロスがしばらく続きそうである。
	<input type="checkbox"/>	その他非製造業〔鋼材卸売〕（従業員）	・限られた業種の一部の企業は忙しいようだが、全体的には受注量が減っているため、今後の景気が悪くなりそうな気配がある。
	▲	金属製品製造業（従業員）	・住宅価格の高騰、地価の上昇、生活にかかわる物価の上昇などの動きがみられる一方で、賃金の上昇が追い付いていないことから、今後の景気はやや悪くなる。
	▲	広告代理店（従業員）	・今後も様々な商材の値上げが予定されていることから、景気はやや悪くなる。
	▲	司法書士	・地方都市において、大型店舗が相次いで閉店しており、衰退の勢いがすさまじい。人口も毎年減少していることから、景気は徐々に悪化することになる。
	▲	その他サービス業〔建設機械リース〕（支店長）	・コスト上昇、設備価格の高騰、物流の2024年問題など、取り巻く環境が厳しいことから、今後の景気はやや悪くなる。
	×	—	—
	◎	—	—
雇用 関連 (北海道)	○	職業安定所（職員）	・当地における月間有効求人数は3か月連続で前年を下回っているが、産業や業種によってその割合は異なっており、全体的には今後の景気はやや良くなるとみている。ただ、新型コロナウイルスの感染状況、経済活動、消費行動の状況によっては先を見通せない状態となることも懸念される。
	<input type="checkbox"/>	人材派遣会社（社員）	・飲食業やホテル・旅館業などでの人材不足が報道され、今後も採用困難な状況が継続することを懸念しているのか、今のうちに人材を採用しようという動きがみられる。そのため、今後も採用ニーズの強い状況は変わらない。
	<input type="checkbox"/>	求人情報誌製作会社（編集者）	・求人市場の需給バランスにゆがみを感じる。どこの企業も人材を求めてあらゆる手段で人手を確保しようと努めているものの、地域において供給できる人材の不足が否めない状況となっていることから、今後も景気は変わらない。
	<input type="checkbox"/>	求人情報誌製作会社（編集者）	・企業においてスタッフ数は足りないが、人件費を掛けることができないという状況がしばらく続くとみられる。
	<input type="checkbox"/>	職業安定所（職員）	・新規求職者が2か月連続で前年を上回ったことに加えて、原油価格や原材料価格の高騰など、企業の事業環境の悪化を招く要因も多いものの、有効求職者数が11か月連続で減少していること、業況堅調な事業所からの新規求人が引き続きみられることから、今後も景気は変わらない。
	<input type="checkbox"/>	学校〔大学〕（就職担当）	・インバウンドや円安で恩恵を受ける業界を除けば、今後の採用活動に対して慎重な姿勢が続くことになり、未内定学生の就職活動も停滞することになる。9月頃までは学外の景気が分かりづらい状況が続くことになる。

▲	求人情報誌製作会社（編集者）	・秋に向けて、一層の物価高が報道されていることから、慎重な企業がますます増えることになる。
▲	求人情報誌製作会社（編集者）	・物価が下がるようなプラス材料がなければ、景気は良くならない。
▲	職業安定所（職員）	・食料品や生活必需品、光熱水費、燃料代の値上げに歯止めが掛からないこと、高止まりしている原材料費を価格転嫁できない中小企業も多いことから、今後の景気はやや悪くなる。
×	—	—